
第 351 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2016 年 9 月 6 日(火) 17 時 30 分～19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 大塚 淳 氏(大塚矯正歯科クリニック・院長)

タイトル: 成長発育期における歯列矯正用咬合誘導装置の機能と効果

歯列矯正用咬合誘導装置「プレオルソ」は一言で言うと上下一体型の「マウスピース型矯正装置」であり、その装置を利用した口腔周囲筋機能訓練を同時に行う矯正治療方法をこども歯ならび矯正法と称する。これは従来の固定式のマルチブラケット装置で治す 100% の治療でなく実用的な 80% の「歯ならび」と「咬み合わせ」を目指す治療法である。取り外すことができる装置の中には、顎を拡大する「床矯正装置」がある。これは上下、別々に装着するため上顎前突や反対咬合などの顎の前後的なズレや歯の凹凸を治すには至らない。しかし、演者が開発した歯列矯正用咬合誘導装置は、上下一体型なので上顎前突や反対咬合の治りが早く、歯全体を被うため、ある程度まで歯の「凹凸」を治す事も可能となる。しかし、ただこの装置を入れただけでは治らない。本装置を用いた「口腔周囲筋肉機能療法」と言われるトレーニングを同時に行なうことで、初めて大きな効果が現れる。

矯正専門医は、本格矯正することで 100% の「歯ならび」と「咬み合わせ」を目指す。しかしながら、成長発育期の治療（Ⅰ期矯正）だけでは完遂せず、基本的に永久歯列完成期の本格矯正治療（Ⅱ期治療）を行うことが矯正治療を完結すると考えている先生がほとんどである。

では、矯正歯科治療におけるⅠ期治療とはどのように捉えたらいいか。Ⅰ期治療はⅡ期治療のための「準備」「つなぎ」としての矯正治療と捉える先生が多いのではないだろうか。

この成長発育期の矯正治療であるⅠ期治療には小児矯正・予防矯正・部分矯正・床矯正・保隙・咬合誘導…と様々な呼称がなされⅠ期治療は混沌としている。

そこで歯列矯正用咬合誘導装置「プレオルソ」を開発することでⅠ期治療の中において体系化された治療方法を考案した。歯列矯正用咬合誘導装置「プレオルソ」を取り入れることで、Ⅱ期治療の期間を大幅に短縮できるだけでなく、矯正歯科の先生方の多くが日常の臨床で頭を痛めている「後戻り」に対しても劇的な効果があった。それは、この方法が口腔内外の環境を整える治療法だからである。

演者が開発した歯列矯正用咬合誘導装置「プレオルソ」には①タイプ・Ⅰ: 上顎前突、叢生、過蓋咬合、それらの保定に有効、②タイプ・Ⅱ: 開咬とその保定に有効、③タイプ・Ⅲ: 反対咬合 逆被蓋とその保定に有効と 3 つに大別される。そこで成長発育期における様々な不正咬合に適した歯列矯正用咬合誘導装置「プレオルソ」を用いることでその機能と成長発育期における効果について解説する。

Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

略歴:大塚矯正歯科クリニック 院長
1985 年 東京歯科大学卒業
1992 年 歯学博士取得(東京歯科大学 第 1125 号)
1992 年 東京歯科大学非常勤講師
2010 年 医学博士取得(岡山大学医学部 第 4336 号)
東京歯科大学非常勤講師
日本矯正歯科学会認定医

担当:硬組織疾患制御再建学講座 岡藤 範正